令和８年産

ＪＡえちご中越 さんとう地域「五百万石」栽培暦

五百万石生産者部会

月	4 月					5 月					6 月					7 月					8 月					9 月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
出穂前後日数	品種特性に合わせた作業計画の策定										-20	-12		0					+37											

生育ステージ

種子消毒（温湯消毒）【作業目安】
↓
浸種開始　4月 3日
↓
催　芽　4月13日
↓
播　種　4月15日

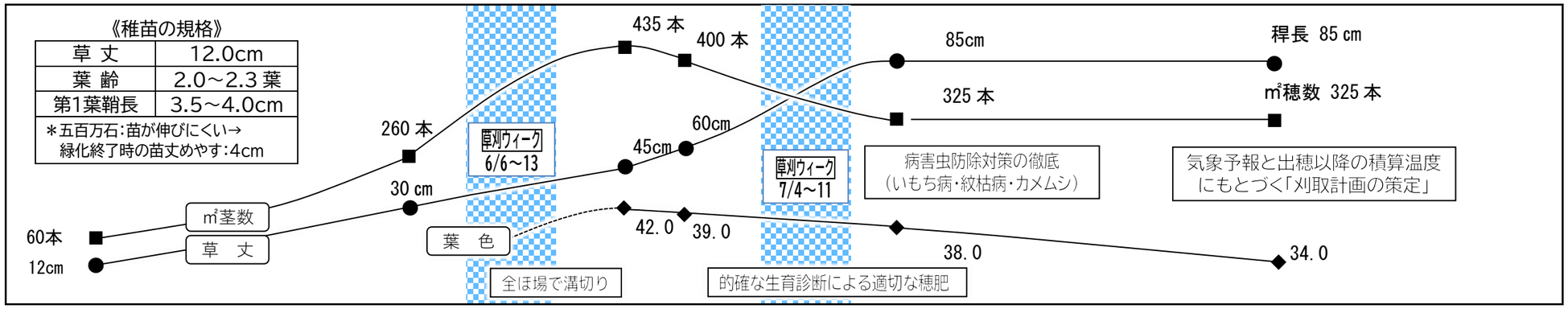
播種量の目安：160g／箱

育苗日数は20日程度 → **田植え 5月5日～**

《稚苗の規格》

草 丈	12.0cm
葉 齢	2.0～2.3 葉
第1葉鞘長	3.5～4.0cm

＊五百万石：苗が伸びにくい→緑化終了時の苗丈めやす：4cm



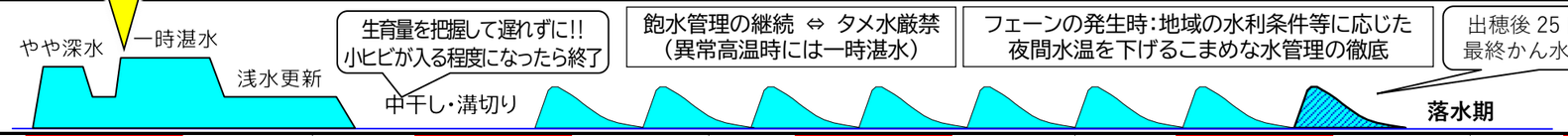
中干し開始 6月５日～
最高分げつ期 6月23日
1回目穂肥 6月30日
2回目穂肥 7月7日
出穂期 7月19日
収穫期 8月25日～

病害虫防除

【いもち病予防】ルーチンブライト箱粒剤 播種時～移植当日
除草剤散布
“補植苗”を早期に撤去する
6月中旬～ 葉いもち病 { 早期発見 / 早期防除
【紋枯病】バリダシン剤（収穫14日前まで） 穂ばらみ期～出穂期
【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期
大粒品種 ↓ ふ割れ発生被害に注意
稲わら秋すき込み

水管理

- 田植後→3～4㎝のやや深水で植え傷み回避
- 活着後→2～3㎝のやや浅水で早期分げつ促進
- 除草剤散布時→湛水状態（水深5～6㎝）で散布
- 中干し開始まで→**浅水更新でワキの発生防止**



栽培管理のポイント

Point1
～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～

① 播種計画の策定～適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成
② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材（有機質・ケイ酸）の施用
③ 作土深15cmの確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施用
→基肥N施肥量のめやす：「10a当たり3.0kg」

Point2
～適期田植えで初期生育を確保します～

① 移植前追肥（べんとう肥）の施用→活着・初期生育を促進
② 田植期のめやすは5月5日
・栽植密度：60株／坪
・植付本数：3～4本／株
・植付深さ：2～3cmの浅植え
③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除（箱施用剤）を徹底→補植苗を速やかに撤去

Point3
～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～

① 目標穂数の80%（260本／㎡＝1株あたり14本）を確保してから→適期中干し開始
② 全ほ場で溝切り（10条：3ｍに1本）→速やかなかん水・排水管理
③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point4
～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～

① いもち病・紋枯病の早期発見～早期防除（こまめにほ場巡回）
② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続（強い中干し・タメ水→厳禁）
③ 出穂後25日以降に最終かん水を入水（落水は出穂28日以降）
～異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止

Point5
～適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します～

① 穂肥は出穂20日前（籾数確保）と12日前（登熟向上）の2回に分けて施用→施肥量は1回目に重点を置いて①回目N：1.5～2.0kg、②回目N：1.0～1.5kg、合計 2.5～3.5kg／10aを目安とする
② 2 回目の穂肥は確実に施用する
③ 急激な葉色低下（SPAD38以下）がみられた場合は追加穂肥を施肥

Point6
～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① 出穂後の積算気温：975℃を参考に籾の黄化率（90%）を確認して適期に収穫する→異常高温が予想される場合には早めに収穫
② 胴割粒の発生防止：刈遅れに注意～籾水分の確認による適正な乾燥温度・速度で急激に乾燥させない→篩目2.0mm以上
③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入＋稲わらの秋すき込み

《施肥のめやす》 （成分 kg／10a）

区分	時期	N成分	備考
土づくり	収穫後	－	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材
基　肥	～田植え	3.0	地力に応じて
穂肥１	出穂20日前	1.5～2.0	遅れずに施肥～籾数確保
穂肥２	出穂12～10日前	1.0～1.5	しっかり施肥～登熟向上
合　計	－	5.5～6.5	＊一発基肥トータルN：5.5～6.5kg

《生育のめやす》

生育ステージ	時期	草丈（㎝）	茎数（本/㎡）	葉色（SPAD）
1回目穂肥	6/30	60	400	39.0
2回目穂肥	7/7	－	－	38.0
出穂期	7/19	85（稈長）	325（穂数）	

《品質向上・収量確保目標》

玄米1等級比率	90%以上
10a当たり収量	540kg

《品種特性》

早晩性	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
早生	弱	中	やや弱	中

《収量構成要素》

収量（kg/10a）	1穂籾数（粒）	穂数（本/㎡）	㎡籾数（百粒）	登熟歩合（%）	千粒重（g）
540	76	325	250	85%	26.0